

## 諸沢 巖教授略歴及び主要業績

### 略歴及び業績一覧

1934年10月10日	東京都に生まれる
1953年 3月	東京都立立川高等学校卒業
1953年 4月	東京教育大学文学部独語・独文学専攻入学
1961年 3月	東京教育大学文学部独語・独文学専攻卒業
1961年 4月	東京教育大学大学院文学研究科独文学専攻修士課程入学
1964年 3月	東京教育大学大学院文学研究科独文学専攻修士課程修了
1964年 4月～1967年 3月	関西大学文学部助手
1967年 4月～1970年 3月	関西大学文学部専任講師
1970年 4月～1979年 3月	関西大学文学部助教授
1979年 4月～2002年 3月	関西大学文学部教授
2002年 4月～2005年 3月	関西大学外国語教育研究機構教授

### 著述目録

#### 著 書

- 『システム・ドイツ文法』（朝日出版社、1971.5）共著  
『日・独・英 連句「遠来の客」』（関西大学出版部、1999.3）共著  
『森鷗外—受容の諸相—』（遊文舎、2003.3）共著

#### 論 文

- 「W. ラーベの『縦の木のエルゼ』」（関西大学独逸文学会『独逸文学』10号、1964.12）  
「Wilhelm Raabeの青年期の体験について」（関西大学文学会『文学論集』16巻5号、1967.3）  
「Wilhelm Raabeの『笑い』の発展」（関西大学文学会『文学論集』20巻1号、1970.7）  
「Über Wilhelm Raabes „Im Siegeskranze“」（関西大学文学会『文学論集』21巻1号、1971.10）  
「ヴィルヘルム・ラーベの『雀横丁年代記』—物語手法を中心に—」（東京教育大学影の会『影』21号、1979.3）  
「Wilhelm Rabbeの『帝冠』— Erählstilを中心に—」（関西大学文学会『文学論集』28巻4号、1979.3）

- 「ラーベにおける故郷喪失の問題」(19世紀ドイツ文学研究会『会報』31号、1981.1)
- 「ヴィルヘルム・ラーベの『雀横丁年代記』—物語手法を中心に—(承前)」(東京教育大学影の会『影』24号、1982.3)
- 「W.ラーベとA.ドゥルク」(東京教育大学影の会『影』33号、1991.5)
- 「W.ラーベとE.ゾラ」(19世紀ドイツ文学研究会『会報』63号、1993.4)
- 「W.ラーベの『ファビアンとゼバスチアン』—比喩を中心に—」(関西大学独逸文学会『独逸文学』43号、1999.3)
- 「W.ラーベの『三つの筆』」(東京教育大学影の会『影』43号、2000.4)
- 「W.ラーベの『三つの筆』—(承前)—」(東京教育大学影の会『影』45号、2002.5)
- 「W.ラーベの『プフィスターの水車小屋』—語り方からの一解釈—」(関西大学独逸文学会『独逸文学』48号、2004.3)

#### 翻 訳

- 「ラインハルト・デール：『ベンゲルザングと文学／文学とベンゲルザング』」(関西大学文学会『文学論集』37巻4号、1988.3)

#### 辞典項目

- 「ラーベ、Wilhelm Raabe」(教育出版センター『世界歴史大事典』第20巻、1985.4)

#### 教科書類

- 「Kleine Deutsche Erzählungen」(関西大学出版部 1969.3)
- 「Das Bild des Menschen」(関西大学出版・広報部 1971.4)
- 「Deutsch fürs erste Jahr」(朝日出版社、1973.4)
- 「Junge Freunde」(郁文堂 1980.3) 共著